



東京文化発信プロジェクト  
東京から生まれる新しい文化の波



Photo: K. Miller (S. Johnson, N.Y. Art, K. Miller, N.Y. Art, 2002. Collection of the Artist, Courtesy, Gladstone Gallery, New York)

# Transformation

Tokyo Art Meeting  
東京アートミーティング

トランスフォーメーション

[中沢新一・長谷川祐子 共同企画]

Press Release | プレスリリース

2010年10月29日(金) → 2011年1月30日(日)

MOT  
MUSEUM CONTEMPORARY TOKYO  
OF ART  
東京都現代美術館

# Transformation

---

## 展覧会概要

生きることは変わること。細胞や知識の更新、時代、環境との出会い、また想像力によって、日々私たちは変わっていきます。

この展覧会は、「変身-変容」をテーマに人間とそうでないものとの境界を探るものです。古今東西、変身をテーマにしたイメージや芸術は多くつくられてきました。特に日本においては、昔話から現代の漫画やアニメのキャラクターに至るまで、豊かなイメージが溢れています。

では今、なぜ「変身-変容」なのか？ インターネットやグローバル経済、テクノロジーの発達によって、従来の社会に属する「人間」という形がぶれはじめ、その存在には、かつてないほどの多様性が生まれつつあります。

本展では、動物や機械、想像上の生き物、異なる遺伝子組成をもつ体など、人とそうでないものの間を横断する多様なイメージが、絵画、彫刻、映像、アーカイヴ、シンポジウムなどを通して展開されます。そこで表現される「変身-変容」する形は、私たちの夢や希望、おそれをひとつの予兆として映し出します。1980年代から現在にわたり15カ国21組のアーティストたちによってつくられた作品を通して、今、変わることの可能性と意味を伝えます。

---

## 東京アートミーティングとは

現代アートを中心に、デザイン、建築などの異なる表現ジャンル、およびその他の専門領域が出会うことで、新しいアートの可能性を提示します。第一回目は、「トランスフォーメーション」のテーマのもと、アートと人類学が出会います。東京藝術大学とも連携し、「東京藝大トランスWEEKS」として、将来世代の育成を図るための展示、パフォーマンス、シンポジウムなどを開催します。

---

## 本展のみどころ

『対称性人類学』などで知られる人類学者、中沢新一との共同企画。人間と動物の関係について考えます。また、多摩美術大学芸術人類学研究所の特別協力を得て、「変身-変容」に関連するアーカイヴ制作を行います。

東京藝術大学とのコラボレーションでおこなう「東京藝大トランスWEEKS」。海外アーティストをまじえたシンポジウム、若手アーティストの展覧会やパフォーマンスを開催します。

ヤン・ファープル自身による日本へのオマージュを込めた衝撃のパフォーマンス。マーカス・コーツと中沢新一によるトークとパフォーマンス。山川冬樹、及川潤耶など若手注目パフォーマーによるサウンド・パフォーマンスなど。本展のための特別パフォーマンス満載!

パールティ・ケール、シャジア・シカンダー、ジャガンナート・パンダなど、インド、パキスタン出身のアーティストたちのヒトと動物、自然を横断する途方もない想像力。新作も含めアジアの新しくダイナミックな表現を見せます。

レディー・ガガにも影響を与えたマシュー・パーニーの代表作《クレマスター3》の彫刻、写真日本初公開、パートナーのビョークもアイスランドのガブリエラ・フリドリクスドットティの作品の中でキュートな怪物として登場します。

# Transformation

トランスフォーメーションの岬

中沢新一

私たちの生存のフォルムは、ハイパー技術によって、劇的な変容(トランスフォーメーション)をとげつつある。ナノテク技術は、知性が想像しうるかぎりの微細なイメージを、直接に物質に刻みこむことを可能にしている。デジタル化された情報の処理能力は、かつてない規模と深さで世界を数値化しつつある。インターネットは、人間の生存にとってもっとも重要なフォルムであった社会的媒介の様式を、急速に弱体化させ、解体させようとしている。ハイパー技術はいまや、身体と神経組織に直接結びつき、一体となることによって、生存のフォルムそのものを大きく作りかえようとしている。

しかし、このハイパー技術による人間的生存の変容には、一つの致命的な限界がセットされている。モダン技術の延長上にある今日のハイパー技術は、モダンの原理である合理性、文法性、目的性、同一化、脱魔術化を押し進めることによって、生存の変容の岬であるその先端部が触知する未来の可能性を、あらかじめ一つの方向に閉じてしまっている。

私たちはこのようなハイパー技術の現在に向かい合うアートの力をしめすために、この展覧会を企画した。人間的生存のうちに開かれつつあるトランスフォーメーションの岬は、偶然と多次元性と多様性の海に突き出していなければならない。岬の先端部で海水は砕け飛び、水しぶきはあらゆる方向に飛散していかなければならない。ここから船出するものは、目的地を持たない。想像力の海を泳いでいるうちに、人間は動物への、植物への、さらには見知らぬ物質への変成をとげていく。

私たちは、ハイパー技術が現出させようとしているトランスフォーメーションの岬の光景をつくりかえ、人間的生存に魅惑をとり戻さなければならぬと考えた。つまり、それがアートである。生存のアルス(わざ)としてのアート。すでに私たちの現実である技術的変容の岬の突端に立って、そこを偶然と歓びにみちた未知の地形につくりかえるのである。そのようなトランス=トランスフォーメーションのためのアルスだけが、今日ではアートの名前に値する、と私たちは信じる。

中沢新一 | Shinichi Nakazawa

1950年、山梨県生まれ。多摩美術大学芸術学科教授及び芸術人類学研究所所長。思想家、人類学者。東京大学大学院人文科学研究科修士課程修了。東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所助手、中央大学総合政策学部教授を経て、2006年より現職。著書に、『人類最古の哲学』『熊から王へ』『愛と経済のロゴス』『神の発明』『対称性人類学』(「カイエ・ソバージュ」シリーズ、講談社選書メチエ)、『チベットのモーツァルト』『森のパロック』(講談社学術文庫)、『哲学の東北』(青土社)、『緑の資本論』『フィロソフィア・ヤポニカ』(集英社)、『精霊の王』『アースダイバー』『狩猟と編み籠』(講談社)『芸術人類学』(みすず書房)、『鳥の仏教』(新潮社)など多数ある。

# Transformation

---

## 出品作家

(アルファベット順)

AES + F

マシュー・バーニー Matthew Barney

サイモン・バーチ Simon Birch

フランチェスコ・クレメンテ Francesco Clemente

マーカス・コーツ Marcus Coates

ヤン・ファープル Jan Fabre

ガブリエラ・フリドリクスドットティ Gabriela Friðriksdóttir

石川直樹 Naoki Ishikawa

パールティ・ケール Bharti Kher

イ・ブル Lee Bul

小谷元彦 Motohiko Odani

及川潤耶 Junya Oikawa

ジャガンナート・パンダ Jagannath Panda

パトリシア・ピッチニーニ Patricia Piccinini

シャジア・シカンダー Shahzia Sikander

スプツニ子! Sputniko!

ヤナ・スターバック Jana Sterbak

サラ・ジー Sarah Sze

高木正勝 Masakatsu Takagi

トゥンガ Tunga

アピチャポン・ウィーラセタクン Apichatpong Weerasethakul

---

## 作家紹介

AES+F

[1987年タチヤーナ・アルザマソヴァ(1955年-)、レフ・エヴゾーヴィチ(1958年-)、エヴゲーニイ・スヴァツキイ(1957年-)により、AESを結成。1996年より写真家ヴラジーミル・フリトゥケス(1956年-)とともに、AES+F名義で活動。ロシア在住。]

アーティスト・グループ「AES+F」は、映像や写真、彫刻を用いて、冷戦以降の現代社会における文化の融合や衝突、民族間の対立などをモチーフに制作している。近年の作品では、東西の文化や風景、ファンタジーと現実とが混在する世界で、子供達が無表情に殺し合う戦争を描いている。今回は代表作ともいえる映像作品《最後の暴動》(2007年)を出品する。

---

マシュー・バーニー | Matthew Barney

[1967年サンフランシスコ生まれ、ニューヨーク在住]

イエール大学で医学を修めた後、美術と体育を学ぶ。フットボールの特待生やファッション・モデルなどを経て、現在は作家として映像や彫刻を中心に作品発表を行っている。人間の身体における内部と外部の関係性や変容をテーマにした、長編五部作の映像作品《クレマスター》シリーズは彼の代表作である。今回は《クレマスター3》(2002年)の映像や写真、彫刻作品などを出展予定。

# Transformation

---

サイモン・バーチ | Simon Birch

[1969年ブライトン(イギリス)生まれ、香港在住]

バーチは、モデルのエネルギッシュな身体を抽象的なフォルムに解体して描いたペインティングを中心に様々な領域で活動している。近年ではその範囲を映像作品やインスタレーションにも拡張している。本展で紹介する映像インスタレーション《ソゴモン・テフリリアン》(2008年)は、鑑賞者を囲むように設置された四面のスクリーン上をベンガル虎が徘徊する作品であり、動物園で見せ物とされてきた虎とその鑑賞者との主客関係を逆転させる。

---

マーカス・コーツ | Marcus Coates

[1968年ロンドン生まれ、同在住]

マーカス・コーツは、鹿の毛皮をかぶりシャーマンとして人々の悩みを解決したり、人が鳥のさえずりを再現するなど、イギリス人独特のウィットとユーモアを織り交ぜた映像やパフォーマンスを発表している。そこでは、作家本人あるいは参加者が「動物になる」ことによって、動物と人間が共有するものを再発見するとともに、人間性を再定義する契機をもたらす。会期中には、パフォーマンスおよび中沢新一とのトークイベントを開催予定。

---

フランチェスコ・クレメンテ | Francesco Clemente

[1952年ナポリ生まれ、ニューヨーク在住]

1980年代に脚光を浴びた新表現主義作家の一人。油彩、水彩、パステル、フレスコ、版画などを用いて、独特の色彩感覚と歪みを持つ具象画を描く。宗教や神話の他、目を誇張して描かれた作家自身がモチーフとして頻りに登場する。そこでしばしば彼は昆虫や動物に部分的変容を遂げ、自然との精神的同一化を果たすと同時に、確固たる自我を探求している。

---

ヤン・ファール | Jan Fabre

[1958年アントワープ生まれ、同在住]

『昆虫記』で有名なジャン＝アンリ・ファールを曾祖父に持つ美術家、舞台演出家、劇作家、振付家。玉虫で表面を覆った彫刻やインスタレーションの他、BIC社製のボールペンを使用したドローイング、パフォーマンスなどで知られる。理想化されていない人間のむき出しの身体への興味が、その限界や変容を通して作品に反映されている。

---

ガブリエラ・フリドリクスドットティ | Gabriela Friðriksdóttir

[1974年レイキャヴィク(アイスランド)生まれ、同在住]

ガブリエラの作品は、アメーバに似た生命体を描いたドローイング、目などが欠損したモンスターや性器が変形した不気味な彫刻を特徴としている。ビョークが出演する映像インスタレーション《パーセプションズ四部作》(2005年)は、タロットや錬金術といった西洋の伝統だけに留まらず、広範な原始的宗教から引用した要素によって非合理的で野性的な世界を構成している。

# Transformation

---

石川直樹 | Naoki Ishikawa

[1977年東京生まれ、同在住]

高校時代より世界各地を旅して周り、2000年に北極から南極を人力で縦断。翌年には七大陸世界最高峰登頂を当時の世界最年少記録で達成。人類学や民俗学についての造詣も深く、それらは旅の記録を記した著作などにも強く表れている。本展覧会では苛酷な環境に自ら飛び込み、徐々に極限状態へと変化していく様を石川直樹本人のインタビュー映像を通して見せる。

---

パールティ・ケール | Bharti Kher

[1969年ロンドン生まれ、インド在住]

英国に移住してきたインド人の両親のもとに生まれ、ロンドンで教育を受け、現在はインドで活動するケールは、アイデンティティや社会における女性の役割といった問題を浮き彫りにする。インドの女性が身につける「ビンディ」を使用した美しい抽象絵画を発表する一方、女性の身体の一部が動物へと変化する写真作品《ハイブリッド・シリーズ》では、その獐猛性と欲望が強調され、身分証明書に固執する社会や弱体化する自我に対する警告を浴びせかける。本展では、四点の彫刻と絵画および写真作品を出品予定。

---

イ・ブル | Lee Bul

[1964年ヨンウォル(韓国)生まれ、ソウル在住]

イ・ブルの作品は、有機的な身体と機械との融合や、四肢などが異常に発達した動物的身体など、異形の彫刻を特徴としている。彼女はこれらの身体を純白に、時には彩りを加え、光沢のある滑らかな質感で美しく仕上げることで、生命が必然的にもつ腐敗し滅びゆく一過性を超克しようとする普遍的な願望を投影している。

---

小谷元彦 | Motohiko Odani

[1972年京都生まれ、東京在住]

小谷の作品は、木や動物の剥製、毛皮、自らの血液、写真やインターネットなど多彩なメディアが用いられ展開している。本展出品予定の《僕がお医者さんに行くとき》(1995年)は、東京芸術大学在籍時代の作品で、自身の幼少期の記憶を発端として、イボやかさぶたといった身体の一部が際限なく増殖し、グロテスクで生物的なものへと変容していく。2010年11月、森美術館にて個展を開催予定。

---

及川潤耶 | Junya Oikawa

[1983年仙台生まれ、茨城在住]

自身のリップノイズやささやき声をもとに電子音楽の作曲を手掛ける。及川は、PCを介して対象音の構成要素を綿密に分析し、内部にある微細な音響を有機的に拡張、伸縮させることで異質な音へと変容させる手法をとる。本展にあわせ、作家自身の声を中心に、ジェンダーや動物/人間、生物/無生物の境界を飛び越えて、自己を変容させるサウンドインスタレーションを制作予定。

# Transformation

---

ジャガンナート・パンダ | Jagannath Panda

[1970年オリッサ(インド)生まれ、インド在住]

インドや日本、ロンドンで美術を学ぶ。作品に登場する神々や動物への独特の眼差し、伝統文化と現代性、都市と自然の衝突を扱いながらもそれらが調和し同居する作風が特徴。高層ビルを背景に古い布から切り取られたヒンドウーの神が躍動する新作絵画《<sup>エビツク</sup>叙事詩III》(2010年)や凹凸のある布が貼付けられた動物の彫刻作品などを出品予定。

---

パトリア・ピッチニーニ | Patricia Piccinini

[1965年フリータウン(シエラレオネ共和国)生まれ、メルボルン在住]

遺伝子操作をはじめとするバイオテクノロジー、生命倫理、環境への関心を主題に、彫刻、映像、デジタルプリントなど多岐にわたるメディアで作品を制作。人間/動物、人工物/生物の境界をあいまいにする突然変異体が精巧なリアリティを持って登場し、現代科学の可能性とそれに向けた警鐘、変身と進化の神秘を追及する。本展覧会では、水中におぼれた少女がエラをもつ生物へ変身をとげる映像作品《サンドマン》(2003年)を出品予定。

---

シャジア・シカンダー | Shahzia Sikander

[1969年ラホール(パキスタン)生まれ、ニューヨークおよびベルリン在住]

パキスタンで伝統的な細密画を学ぶ。彼女の作品は政治や権力、伝統やアイデンティティ等の変化の過程に主眼が置かれている。細密画の技法を用いながら、いくつものイメージが重ね合わされ、元の意味を離れて次々と変容させてゆく。本展ではドローイングの連作と新作の絵画、そしてトレーシングペーパーを用いた巨大な壁画作品を出品予定。

---

スプツニ子! | Sputniko!

[1985年東京生まれ、ロンドンおよび東京在住]

2009年にメディアアートの世界的祭典アルスエレクトロニカで[the next idea]を受賞。ローリー・アンダーソンの音楽やダナ・ハラウェイの理論に影響をうける。ジェンダーやテクノロジー、ポップカルチャーをテーマにした作品を中心に制作。楽曲の作詞・作曲や作品に登場する「生理マシン」などのデバイスもプログラミングから制作まで全て自身がやっている。映像はWeb上で協力者を募集し、それらで集まった監督・スタッフとで制作。日本での本格的な作品展示は本展覧会が初となる。

---

ヤナ・スターバック | Jana Sterbak

[1955年プラハ生まれ、モントリオール在住]

電熱線や生肉を使ったドレス、ブロンズ製の性器や内臓をばらまくオブジェなどを制作している。スターバックの作品は、限られた選択肢しか存在しない環境下である状態を提示し、見る者に普段の自分とは異なるもう一つの姿を存在させる。本展では、犬の背中に三台の小型カメラを取り付け、犬の視線からヴェネツィアの街並みを撮影した映像作品《高潮を待ちながら》(2007年)を展示予定。

# Transformation

サラ・ジー | Sarah Sze

[1969年ボストン生まれ、ニューヨーク在住]

発泡スチロールやペットボトルなど身の回りにあふれる大量生産品を組み上げ、サイトスペシフィックなインスタレーションを展開する。一見カオス的な作品も、色彩や形状、光を基準に細部まで秩序を持って構成されており、軌道や回路、電球など動力の集合体からなる精密な作品は、しばしば都市空間や生物機能に例えられる。本展覧会にあわせて新作を出品予定。

高木正勝 | Masakatsu Takagi

[1979年京都生まれ、同在住]

2006年に国際的な映像祭「RESFest」で世界のクリエイター10人に選出される。作品は主に京都や海外などの旅先で作家本人が撮影した映像をベースに作り上げ楽曲も自らが制作している。近年は古来の文化や世界各地の神話などにも関心を広げ、芸術人類学研究所と共同で「人間と動物」の関係を表現した作品《Homičevalo》(2008年)を制作。本展覧会では鳥の目線を題材にした新作を出品予定。

トゥンガ | Tunga

[1952年パルマレス(ブラジル)生まれ、リオデジャネイロ在住]

エリオ・オイチシカ(1937-1980)やリジア・クラーク(1920-1988)といった60年代のブラジルを代表するアーティストたちの傾向を継ぎ、その作品には身体への関心が見られる。パフォーマンスや詩など多岐に渡る芸術実践はバロック的な繁茂と自由性に富んでおり、立体作品においては、特に物質性や重力が意識されている。70年代中ごろから二つのものの関係に着目、絡みあった蛇や髪を共有する双子のモチーフがたびたび登場する。

アピチャポン・ウィーラセタクン | Apichatpong Weerasethakul

[1970年バンコク生まれ、チェンマイ在住]

カンヌ国際映画祭パルムドール(最高賞)受賞の「ブンミおじさん(仮題)」(2010年)やアジア・アート・アワード受賞の《ナブアの亡霊》(2009年)で注目を集める映像作家。災厄的なプロット、虚構と現実を織り交ぜた手法などで知られる。近年の作品ではタイの歴史や記憶、伝統もモチーフとされる。写真やサウンド、映像を使ったインスタレーションの展示も多い。本展覧会にあわせ、映像インスタレーションを制作予定。会期中、長編映画「トロピカル・マラディ」(2004年)の上映も予定。なお、「ブンミおじさん(仮題)」は2011年春にシネマライズほか全国順次公開を予定している(提供:シネマライズ/配給:ムヴィオラ)。

アーカイヴ展示

古今東西、人類学からマンガまで「変身-変容」に関連する資料を展示することにより、展覧会とは別の角度から人間と動物の関係について探ります。

アーカイヴ設計: 小田マサノリ(東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所特任研究員)

石倉敏明、大澤紗蓉子(多摩美術大学芸術人類学研究所)




# Transformation

## 展覧会概要

展覧会名：東京アートミーティング トランスフォーメーション

主催：東京都、東京都現代美術館・東京文化発信プロジェクト室（公益財団法人東京都歴史文化財団）、東京新聞、東京藝術大学

特別協力：多摩美術大学芸術人類学研究所

助成：ブリティッシュ・カウンシル 、ベルギーフランドル交流センター 

協力：NECディスプレイソリューションズ、株式会社ヤマト

東京都現代美術館

2010年10月29日（金）～2011年1月30日（日）

会場：企画展示室1F、3F、アトリウム

休館日：月曜日 ただし1/3、10は開館、12/29～1/1、1/11は休館

開館時間：10:00～18:00（入場は閉館の30分前まで）

観覧料：一般 1300円（1040円）／大学・専門学校生・65歳以上 1000円（800円）／

中高生 650円（520円）／小学生以下 無料 \*（）内は20名様以上の団体料金

東京藝大トランスWEEKS

2010年10月29日（金）～11月17日（水）

東京藝術大学上野校地（入場無料）

◎シンポジウム「芸術とトランスフォーメーション」

10月29日（金）16:30～18:30

会場：美術学部中央棟第一講義室

パネリスト：シャジア・シカンダー、中沢新一、伊藤俊治、保科豊巳

モデレータ：長谷川祐子 総合司会：坂口寛敏

◎ディスカッション&パフォーマンス

及川潤耶、スプツニ子!、松井えり菜 / 小沢剛

11月16日（火）15:00～17:30

会場：大石膏室（絵画棟1F）

◎「トランスフォーメーション イン 大石膏室」展

東京藝術大学在学学生および卒業生による展示

10月29日（金）～11月17日（水）

会場：大石膏室、Art Space1、Art Space2（絵画棟1F・M2F）

# Transformation

---

## 展覧会スタッフ

共同企画：中沢新一・長谷川祐子

展覧会学芸スタッフ：西川美穂子、吉崎和彦（東京都現代美術館）

展覧会アシスタント：荒井保洋、石田千英、小高日香理、高井康充、橋本瑛史、和田真文

調査協力：石倉敏明、大澤紗蓉子（多摩美術大学芸術人類学研究所）

---

## 同時開催

◎「オランダのアート&デザイン新言語」(企画展示室)

◎「MOTコレクション」(常設展示室)

同時開催の「オランダのアート&デザイン新言語」との共通チケットもございます。

一般 1,800円 / 大学・専門学校生・65歳以上 1400円 / 中高生 900円

\*本展のチケットおよびセット券で「MOTコレクション」もご覧いただけます。

---

## 展覧会オフィシャルブック

『トランスフォーメーション』

中沢新一／長谷川祐子／特別寄稿：平野啓一郎

予価2,600円＋税 アクセス・パブリッシング刊

2010年10月28日発売予定

---

「トランスフォーメーション展」公式iPhoneアプリ(無料)

10月28日(木) リリース予定

---

## 交通案内

・東京メトロ半蔵門線・清澄白河駅B2番出口より徒歩9分

・都営地下鉄大江戸線・清澄白河駅A3番出口より徒歩13分

・東京メトロ東西線・木場駅3番出口より徒歩15分、又は都営バス(業10)

「業平橋駅前」行き、(東20)「錦糸町駅前」行きで「東京都現代美術館前」下車

・都営地下鉄新宿線・菊川駅A4番出口より徒歩15分、又は都営バス(業10)

「新橋」行き、(東20)「東京駅丸の内北口」行きで「東京都現代美術館前」下車

・JR東京駅丸の内北口2番乗り場より、都営バス(東20)「錦糸町駅前」行きで

「東京都現代美術館前」下車

・首都高速「木場」又は「枝川」出口利用

---

## お問い合わせ

東京都現代美術館

〒135-0022 東京都江東区三好4-1-1

03-5245-4111(代表) 03-5777-8600(ハローダイヤル)

<http://www.mot-art-museum.jp>

# Transformation

---

## 展覧会関連イベント・ プログラム

### ◎ヤン・ファープルのパフォーマンス

10月29日〈金〉 20:00-

\*同日は、20:00まで「トランスフォーメーション」展をご覧ください。

### ◎アーティスト・トーク

10月30日〈土〉 15:00-17:00

シャジア・シカンダー、石川直樹、及川潤耶、高木正勝、スブツニ子!

### ◎レクチャー「人間から動物への変容/狼男・仮面・凶暴戦士」

11月14日〈日〉 15:00-16:30

講師:石倉敏明(多摩美術大学芸術人類学研究所助手)

### ◎マーカス・コーツのパフォーマンス+中沢新一との対談

12月17日〈金〉 19:00-20:30

### ◎サウンド・パフォーマンス 山川冬樹/及川潤耶

12月18日〈土〉 15:00-

### ◎アピチャップン・ウィーラセタクン「トロピカル・マラディ」上映

11月19日〈金〉、21日〈日〉 11:00-/13:30-/16:00-(予定)

23日〈火・祝〉 13:30-/16:00-(予定)

\*上映時間118分 \*上映時間と回数は変更の可能性があります。

### ◎アピチャップン・ウィーラセタクン アーティスト・トーク

11月19日〈金〉 19:00-(予定)

定員:200名(事前申込制)

\*東京フィルメックス(11月20日-28日)との共同企画

### 以上各回共通

参加費:無料(ただし上映会以外はトランスフォーメーション展のチケットが必要です)

会場:講堂(地下2階)

定員:200名(アピチャップン・ウィーラセタクンのアーティスト・トーク以外は先着順)

参加方法、その他詳細は決まり次第東京都現代美術館HPにてお知らせいたします。

# Transformation

---

エデュケーション・  
プログラム

◎「先生のための特別研修会」

11月5日〈金〉 16:00-18:00

小・中・高等学校の教員対象 定員40名 参加無料 事前申込制 (先着順)

◎「ミュージアム・スクール」(学校向け鑑賞教室)

11月16日〈火〉から1月27日〈木〉までの毎週火・木曜日

小・中・高等学校対象 2週間前までに申込 (先着順)

◎「ギャラリー・クルーズ」

2011年1月22〈土〉、23日〈日〉 13:00-15:00

小学3-6年生 各日20人 参加無料 事前申込制

参加方法、その他詳細は決まり次第東京都現代美術館HPにてお知らせいたします。

---

本展に関する  
広報お問い合わせ

東京都現代美術館 広報班

Tel.03-5245-1134 (広報直通) Fax.03-5245-1141

野口玲子 r-noguchi@mot-art.jp

小原久実子 k-ohara@mot-art.jp

---

東京文化発信プロジェクトとは

東京文化発信プロジェクトは、世界の主要都市と競い合える芸術文化の創造発信、芸術文化を通じた子供たちの育成、多様な地域の文化拠点の形成を目的として、東京都と東京都歴史文化財団が芸術文化団体、アートNPO等と協力して実施しているプロジェクトです。

演劇、音楽、伝統芸能、美術など様々な分野のイベント、まちなかで市民とアーティストが協働するアートプログラム、子供向けの体験型プログラムなどの事業を展開しています。

東京文化発信プロジェクトに関するお問合せ・取材のお申込み:

東京文化発信プロジェクト室事業推進課

吉原/大石 info@bh-project.jp

Tel.03-5638-8800 Fax.03-5638-8811

# Transformation

## 広報用画像

本展広報用として、下記10点の図版がございます。

掲載ご希望の方は別紙FAXシートにてご希望の図版番号をお知らせください。



1. マシュー・バーニー  
《クリスマスマスター3:ファイブ・ポイント・オブ・フェロウシップ》2002  
Collection of the Artist, Courtesy: Gladstone Gallery



2. AES+F 《最後の暴動2トラック》2006  
©AES+F Courtesy: Triumph Gallery, Moscow [参考図版]



3. フランчесコ・クレメンテ《野うさぎとしての自画像》2005  
Courtesy: Lorcan O'Neill Photo: Johnnie Shand Kydd

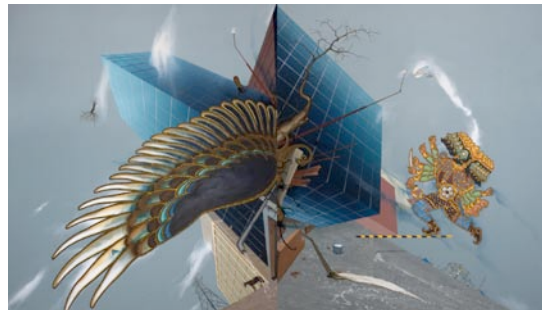


4. ヤン・ファーブル《第15章》2010



5. ガブリエラ・フリドリクスドッティ《北(四部作)》2005

# Transformation



7. ジャガンナート・バンダ <sup>エビッラ</sup>《叙事詩III》2010

6. パールティ・ケール《狩人と預言者》2004  
Courtesy: the artist and Hauser & Wirth



8. シャジア・シカンダー《ネメシス》2003  
Courtesy: the artist and Sikkema Jenkins & Co, New York



9. スプツニ子!《寿司ボーグ☆ユカリ》2010



10. アビチャッポン・ウィーラセタクン  
「トロピカル・マラディ」2004  
Courtesy: Kick the Machine Films



東京都現代美術館 事業企画課企画係 広報班宛

FAX. 03-5245-1141

本展覧会広報用素材として、作品画像10点をご用意しております。

ご希望の際は下記申込用紙に必要事項をご記入の上、ファックス又はEメールにてお申込みください。

なお、写真の使用に際し、以下の点をご注意ください。

① キャプションは、作家名、作品名、制作年、撮影者等を必ず表記ください。

② 作品のトリミング、文字載せはお控えください。

本展記事を紹介頂く場合には、恐れ入りますが情報確認の為の校正、掲載誌(紙)、DVD、CD等をお送りください。

また読者様・視聴者様へのプレゼント用招待券もご手配可能ですので、ご希望の場合はお申し付けください。

○印をおつけください

媒体名: 『

』

TV ラジオ 新聞 雑誌 フリーペーパー  
ネット媒体 携帯媒体 その他

御社名:

発売・放送予定日:

ご担当者名:

Eメールアドレス:

@

(〒 - )

ご住所:

TEL:

FAX:

図版番号: ご希望の図版番号に ✓ をおつけください。

- |                                                                                                                               |                                                                                                         |
|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <input type="checkbox"/> ① マシュー・バーニー《クレマスタ-3: ファイブ・ポイント・オブ・フェローシップ》2002 Collection of the Artist, Courtesy: Gladstone Gallery | <input type="checkbox"/> ⑥ パールティ・ケール《狩人と預言者》2004 Courtesy: the artist and Hauser & Wirth                |
| <input type="checkbox"/> ② AES+F《最後の暴動2 トラック》2006 © AES+F Courtesy: Triumph Gallery, Moscow[参考図版]                             | <input type="checkbox"/> ⑦ ジャガンナート・パンダ <sup>エピック</sup> 《叙事詩Ⅲ》2010                                       |
| <input type="checkbox"/> ③ フランチェスコ・クレメンテ《野うさぎとしての自画像》2005 Courtesy: Lorcan O'neill Photo: Johnnie Shand Kydd2009              | <input type="checkbox"/> ⑧ シャジア・シカンダー《ネメシス》2003 Courtesy: the artist and Sikkema Jenkins & Co, New York |
| <input type="checkbox"/> ④ ヤン・ファープル《第15章》2010                                                                                 | <input type="checkbox"/> ⑨ スプツニ子!《寿司ボーグ☆ユカリ》2010                                                        |
| <input type="checkbox"/> ⑤ ガブリエラ・フリドリクスドッティ《北(四部作)》2005                                                                       | <input type="checkbox"/> ⑩ アピチャップン・ウィーラセタクン「トロピカル・マラディ」2004 Courtesy: Kick the Machine Films            |

プレゼント用招待券をご希望の場合は✓をおつけください。  10名様 /  20名様

広報お問い合わせ先: 東京都現代美術館 事業企画課企画係 広報班

野口 r-noguchi@mot-art.jp 小原 k-ohara@mot-art.jp

東京都江東区三好4-1-1 TEL.03-5245-1134(直通) / FAX.03-5245-1141